

平成22年度

20th

# 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

## 入 選 作 品

主催 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト実行委員会  
(栗原市、登米市、宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)  
後援 宮城県、栗原市観光物産協会、登米市観光物産協会、  
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、  
河北新報社、読売新聞東北総局、朝日新聞仙台総局、  
毎日新聞仙台支局  
協賛 富士フイルム(株)、宮城県写真商業組合

# 入 選 者

各 賞	題	氏 名	住 所
<b>最優秀賞</b> (宮 城 県 知 事 賞)	飛 翔 (ひしょう)	森 喜 博	遠田郡美里町
<b>優 秀 賞</b> (宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞)	朝焼けの空へ	小野寺 亨	栗原市瀬峰
<b>金 賞</b> (栗 原 市 長 賞)	ハス咲く伊豆沼	菊 池 郁 子	東松島市矢本
<b>金 賞</b> (登 米 市 長 賞)	霧 の 朝	菱 沼 明 夫	仙台市宮城野区
<b>銀 賞</b> (栗原市観光物産協会会長賞)	かえるの学校	中 山 隆 夫	大崎市三本木
<b>銀 賞</b> (登米市観光物産協会会長賞)	暁 光	鈴 木 正 一	仙台市泉区
<b>銀 賞</b> (宮城県伊豆沼・内沼サクチュアリ友の会会長賞)	夏の伊豆沼	伊 藤 利喜雄	岩手県一関市
<b>銅 賞</b> (河北新報社賞)	紫雲に染る朝	千 葉 忠 雄	栗原市若柳
<b>銅 賞</b> (読売新聞東北総局長賞)	夕焼けに染るサギの群れ	伊 藤 孝 喜	登米市中田町
<b>銅 賞</b> (朝日新聞仙台総局長賞)	夕 照 の 乱	蛭 田 敏 夫	登米市中田町
<b>銅 賞</b> (毎日新聞仙台支局長賞)	風 翔	佐々木 章 逸	石巻市吉野
<b>入 選</b>	湖 秋	高 橋 利 行	登米市迫町
<b>入 選</b>	夕陽に向かって	三 塚 東	栗原市鶯沢
<b>入 選</b>	伊豆沼の夜明け	遠 藤 正 弘	本吉郡南三陸町
<b>入 選</b>	水 郷 風 景	成 沢 清 一	石巻市清水町
<b>入 選</b>	ドロンコゲーム	早 坂 昭 夫	石巻市蛇田
<b>入 選</b>	ひ と と き	武 居 節 子	岩手県一関市
<b>入 選</b>	蓮沼に舞う	遠 藤 一	仙台市青葉区
<b>入 選</b>	伊豆沼暮色	佐々木 貞 夫	仙台市泉区
<b>入 選</b>	足並み揃えて	大 友 誠	黒川郡富谷町

## 総 評

皆様のお陰で「伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト」も第20回を迎えることができました。毎年かなり高いレベルの作品が多く集まっています。正直どれを入賞させるか悩んでしまう程、それほど素晴らしい作品が多くて参りました。皆さんの努力がこうして実っていくことを写真から通じて伝わってきます。一つ一つの作品が語っているように伊豆沼・内沼の素晴らしい自然と、そこに住む鳥達の魅力が伝わってくるものが多く写真に捉えられていました。このコンテストが実績として残っていくことで歴史的な成果として記録となり、未来に続いていき、参加者の皆さんの作品が後世に残ることで同時に私も誇りに思います。この日本には美しい自然が多くあります。その一つが伊豆沼・内沼です。皆さんこの伊豆沼・内沼の自然と鳥達の美しい風景にもっと触れ、感じて下さい。それにより写真がより違った表現が出来るようになると思います。

### フォトコンテスト審査員 竹 内 敏 信



1943年愛知県生まれ。

名城大学理工学部卒。

愛知県庁勤務の後、フリーとなる。主として35ミリ一眼レフカメラを駆使し、鋭利な感覚と的確なテクニックで自然の映像化に挑戦し続ける。風景写真の第一人者として最も人気が高く、多くの写真のコンテストの審査員を務める。写真展、講演会など多数。

主な写真集「花祭」(誠文堂新光社)、「天地」「天地聲聞」「櫻」(出版芸術社)、「天地風韻」(日本芸術出版社)、「雪月花」(トニー・セブン)。

(社)日本写真家協会会員

日本写真芸術専門学校校長 東京工芸大学講師

現代写真研究所講師





〔評〕 朝の静寂をもって、飛び上がったマガンの猛々しい姿を見事に表現している。一羽一羽のマガン達の個性を感じさせる。また背後の蓮の具合やヨシの様子もそれぞれ雰囲気が伝わってくる写真です。早朝のムードがとてもこの沼地にあって素晴らしい作品です。

〔評〕 ハスの花を大胆にとりいれた画面構成がまず素晴らしい。このため、目を惹く作品になっています。写真は素晴らしいが全体的にややプリントが浅く感じます。もっと空の部分が見えてくるように焼きこめばもっと良い作品になります。







〔評〕 真っ赤に燃えた空間のシチュエーションにマガンの群舞が見事に飛び回る姿は素晴らしい。背景の空間が大きく分けて6段階のグラデーションも目を奪う要素です。我々を楽しませてくれる時間帯表現に仕上がっている作品です。

〔評〕 一斉に白鳥が鳴き出す姿が面白い。ざわめく姿に鳥の歓喜も感じさせます。望遠レンズも適切でポイントとなっている4羽の姿が中心にして背景の数羽のトーンと相俟って、見事に朝の空気を感じさせてくれる作品です。フレームがやや下の空間が多いのがおしい。すこし上が見えてくるとより面白くなるでしょう。





銀賞

(栗原市観光物産協会  
会長賞)

「かえるの学校」

中山 隆夫

〔評〕 9匹のカエルが湖面のなかに発見し、フレーミングした姿が面白い。このカエルの姿も面白いのだがカエルの周りの植物の様子も面白い。ただカエルが真ん中すぎている。出来ればもう少しフレーミングを下に1区伸ばしたほうが周りの風景が見えて面白くなるでしょう。



銀賞

(登米市観光物産協会  
会長賞)

「暁光」

鈴木 正一

〔評〕 群翔を中望遠レンズで飛翔する鳥の姿と水面に浮かぶ鳥の姿が上手く調和している。とても美しい。朝の風景にはなっているが出来ればもう少し長い望遠レンズで空間をもっとダイナミックに切りとったほうがよりいい作品になります。



銀賞

(宮城県伊豆沼・内沼  
サンクチュアリ友の会  
会長賞)

「夏の伊豆沼」

伊藤利喜雄

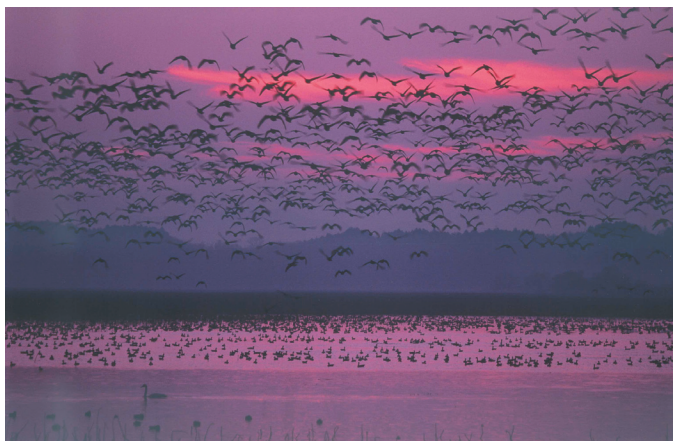
〔評〕 見事に咲いた伊豆沼のハスの姿を捉えた写真です。そこに観光ボートの姿が見えるが本人が意図して入れたのかどうか分からないが、ハスよりもまずボートに目がいってしまう。人工物を一切入れないで撮ったほうがハスの風景になるでしょう。





銅賞（河北新報社賞）  
「紫雲に染る朝」

千葉 忠雄



〔評〕 沼の紫色に染まるころ一斉に飛び立った姿彼らの習性です。そしてもう一つは大きな集団の特徴でもあると思います。そういうものを捉えて行くことが我々写真家の仕事です。

銅賞（朝日新聞仙台総局長賞）  
「夕照の乱」

蛭田 敏夫



〔評〕 画面からあふれんばかりの数えきれないマガンの数、マガン達のざわめきが伝わってきます。大きなかたまりとして、この集団の意味がある。そういう個性をダイナミックに捉えた作品です。

入選 「湖 秋」  
高橋 利行

〔評〕 望遠レンズでカワセミと枯れハスを象徴化した姿が素晴らしい。カワセミが彼の命の源である魚を口にくわえている姿、クモの巣がハスの周りにとり回っているのも象徴的に捉えられている。



銅賞（読売新聞東北総局長賞）  
「夕焼けに染るサギの群れ」

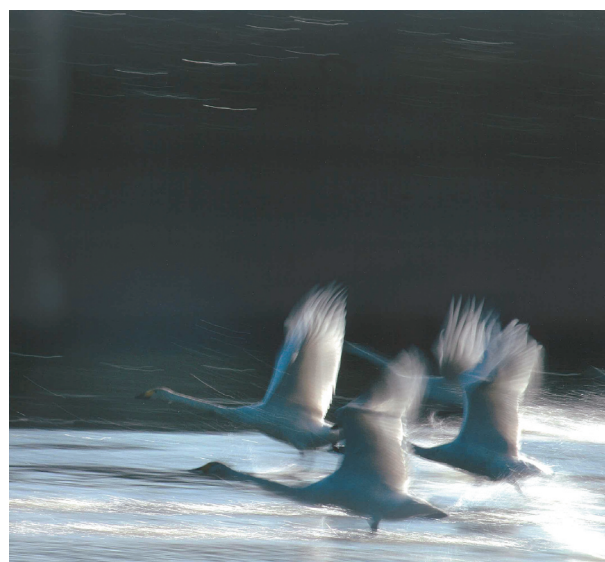
伊藤 孝喜



〔評〕 サギが一か所に集まっている。それも植物が枯れているところに白いサギの姿がとても印象的で美しい。岸边の様々な植物の様子も見えてくる作品に仕上がっています。

銅賞（毎日新聞仙台支局長賞）  
「風 翔」

佐々木章逸



〔評〕 6×6 フレームで撮影した写真と思われます。4羽の白鳥を流し撮りで実に生き生きとした姿が美しく捉えられている。背景がなにもなくシンプルなのも美しく感じさせます。こういう作品がもうすこしできてほしい。

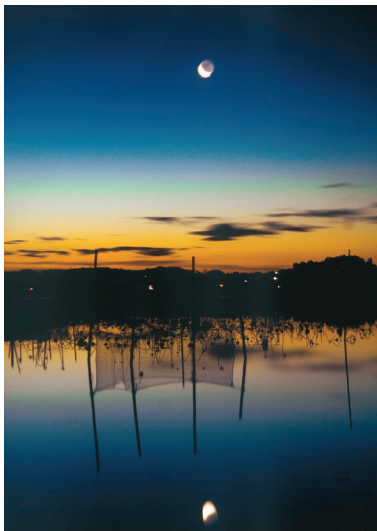
入選 「夕日に向って」 三塚 東



〔評〕 飛び立たんとする3羽の白鳥を見事に捉えている。背景の空をシンプルに撮ることにより、3羽の白鳥が単純化され見やすくなり明解に写し出されている。こういうシンプルな作品も実に面白い。



入選 「伊豆沼の夜明け」  
遠藤 正弘



〔評〕 夜明けの姿を印象的に捉えている。夜明けのグラデーションが象徴的で、まさに明けゆく状況を端的に写し出している。なかでも印象的なのは沼に映る網の姿。この沼の様子をものがたっている。

入選 「水郷風景」  
成沢 清一

〔評〕 ハス沼で作業する不思議な人物。というのも服装衣装ともに現地人とも現代人とも思えない姿。それとも未だにこういう人達が作業しているのだろうか？実に面白い作品です。



入選 「ドロンコゲーム」  
早坂 昭夫

〔評〕 伊豆沼のレンコン掘り大会。参加した少女の可愛い姿が写っています。泥んこになって、顔に少し泥を付けて楽しむ少女の姿を良く捉えています。表情もよく捉え面白い作品になっています。

入選 「ひととき」 武居 節子



〔評〕 静かな一枚の写真であるが、周りの植物の群落という群れからみて、何処となく寂しさを感じさせる。それは、全体的に灰色の調子とグレーの色調のトーンで表現している。



入選 「蓮沼に舞う」  
遠藤 一

〔評〕 この写真は、目のつけ具合が面白い。写真の調子がねむい。何故かという写真本体をやきすぎている。サギも白くやきすぎだ。水面に映っているサギをもうすこしだした方がいい。そうすると写真の狙いがわかってくる。

入選 「伊豆沼暮色」 佐々木貞夫



〔評〕 まさに夕刻の伊豆沼を見事に再現している。枯れハスのうねりや空のトーンが水面に表れ、水面にいるということを見事に捉えている。手前から背景や色調まで捉まえた作品になっています。

入選 「足並み揃えて」 大友 誠



〔評〕 飛び立とうとする白鳥の姿が魅力的です。水しぶきを勢いよく上げている様は、生きているということが伝わってきます。背景の枯れハスも印象的に捉えています。時が経ったことを伝えてくれ、季節移行を表現しています。